

因幡のお宝を探せ

⑫ 鳥取市河原町国英地区

国英地区は霊石山の南麓に位置し、八東川を挟んで八頭町と接する。山陰海岸ジオパークのスポットでもある霊石山は数々の伝説が残る聖なる山。地区内には因幡有数の大シダレザクラや大イチョウ、いわくつきの不思議な石など魅力的なお宝が満載だ。

案内役は国英地区公民館長の渡辺三之さん(70)。山手集落の公民館から南東へ、国英最高のお宝に案内された。三谷神社の大シダレザクラである。4月初めの満開時。高さ、枝張りとも豪華絢爛で、しばらく見とれてしまった。樹齢約300年の県内有数の巨木で、鳥取市の天然記念物だ。三谷しだれ桜保存会の前会長、谷本静穂さん(76)によると、15年ほど前にやぶ状態だった周囲を数年かけて整備。あずまやなどを設け、花見客が訪れる名所となった。谷本さんに誘われて三谷集落の薬師堂を訪ねた。金色に輝く本尊の薬師如来は前かがみで視線は下向き。不思議な姿勢のお薬師さんを探み、健康を祈願した。高台にある薬師堂近くから大シダレザクラを見下ろし、再度感嘆した。



鳥取市天然記念物の三谷の大シダレザクラ。地域住民の保護、整備活動で桜の名所となった



【一口メモ】国英地区は14集落、世帯数375、人口950人(4月末)。公民館は旧国英小跡地にコミュニティー施設、広場とともに整備され、霊石山や河原城など360度の展望を楽しめる。郷原集落では木の葉の化石の「木の葉石」の物語も伝わる。霊石山の山頂には天照大神に由来する「伊勢ヶ平」と呼ばれる草地がある。最勝寺はもともと天台宗の寺だったが、室町時代に真言宗の摩尼寺と宗旨が交代し、摩尼寺は天台宗、最勝寺は真言宗となった。

シダレザクラと聖なる山

にある片山集落の国英神社を訪ねた。平安時代からの由緒ある神社である。境内の高さ30㍎、樹齢500年以上の大イチョウも鳥取市の天然記念物だ。国道を南下し、金口集落に建つ村岡範為(1853〜1929年)の顕彰碑を訪ねた。村

岡は金口出身で明治期の物理学者。音楽教育などにも貢献した。続いて、六日市集落の遠藤元一(1889〜1960年)の顕彰碑。花御所柿を特産品に育てた先人だ。

因美線沿いを北に向かい、郷原集落に入った。区長の有田正樹さん(67)が路傍の不思議な石を紹介した。離縁石である。縦1・5㍎、横1㍎、高さ50㍎の安山岩。言い伝えでは、嫁入り、婿入りで石の前を通ると、石が「早う戻ってこいよ」と呼びかけ、嫁や婿は必ず離縁されて村



郷原集落の路傍にあるいわくつきの「離縁石」(下部の石)。弘法大師の石像が乗せられ、離縁の不幸はなくなった

と、石から声が聞こえなくなったという。地元では「石のお大師さん」と親しまれている。最後に霊石山の山麓に建つ真言宗の最勝寺を訪ねた。947年開基で、37代目の倉信隆忍住職(65)から寺の歴史や霊石山の名所を解説していただいた。最勝寺はもともと山の中腹にあったが、火事で戦後現在地

に建てられ、旧寺跡は奥の院として残された。案内図に従って車で山道を上った。奥の院の手前に有名な御子岩。縦横奥行き5㍎の巨岩で、天照大神を導いた猿田彦命が冠を置いたと伝わり、地元が毎年大しめ縄を飾っている。奥の院には「弁慶の足跡」と呼ばれる石、周辺には供御の水、山王社、水天宮など、さらに源頼朝に追われた源頼朝の墓がある。因幡の範頼伝説の一つだ。長い歴史を育んだお宝の山である。(取材日＝4月3日、5月11日)(森原昌人(随時掲載))